



# 共にある学校

## 学校、家庭、地域が力を合わせ 未来を担う子どもを育てる

今回の特集は、コミュニティ・スクール  
学校を核として、学校運営に地域の声を取り入れながら  
みんながつながり、みんなで子どもを育てる仕組みです  
園教育研修課 (☎231-2310)

**少**子高齢化や人口減少の深刻化、社会全体のグローバル化やIT技術の発達など、近年、社会は急速に変化しています。今後は、さらに急激な変化も予想され、今の常識では測り得ない、予測が困難な時代が来るといわれて

います。このような状況に相まって、子どもたちを取り巻く環境や学校が抱える課題も、ますます複雑化、多様化しています。こうした時代において、子どもたちや学校の抱える課題の解決、未来を担う子どもたちの豊かな成長のために、学校、家庭、地域が協力し合い、社会総掛かりで取

### コミュニティ・スクールの取り組みの魅力



子ども

- 自己肯定感や他人を思いやる心が育つ
- 地域の担い手としての自覚が高まる

- 学校や地域に対する理解が深まる
- 地域の中で子どもたちが育てられる安心感



保護者

- 地域の方の理解と協力を得た学校運営
- 地域人材を活用した教育活動の充実



教職員



地域の方

- 経験を生かすことのできる生きがい・自己有用感
- 学校を核とした地域ネットワークの形成

り組まなければいけません。そのため  
の仕組みがコミュニティ・ス  
クールです。

## コミュニティ・スクール

コミュニティ・スクールとは学  
校運営協議会のある学校を指しま  
す。学校運営協議会では、保護者  
や地域の方が委員となり、学校運  
営や必要な支援に関する協議を行  
います。つまり、コミュニティ・  
スクールとは、学校、家庭、地域

の方が力を合わせて学校の運営に  
取り組む仕組み、ということもで  
きます。その仕組みを生かし、「ど  
のような子どもたちを育てるのか」  
「何を実現していくのか」などの目



下関市立大学  
経済学部

天野 かおり  
准教授

標やビジョンを共有し、互いに連  
携、協働し、地域と共にある学校  
を目指します。

現在、本市ではすべての市立学  
校(市立小・中学校、下関商業高校)  
において、コミュニティ・スクー  
ルを導入しています。これは先進  
的な取り組みで、全国的にも注目  
を浴びています。

## 地域の役割と責任

このことに詳しい市立大学の天  
野かおり准教授に話を伺いました。  
コミュニティ・スクールの仕組み  
が正しく機能するためには、「地域  
と学校は互いにパートナーとして  
認め合い、信頼を築いていくこと  
が大切だ」といいます」と話す天野  
准教授。「地域は、教育を学校に任せ  
きりにするのはなく、教育の責  
任を学校と分かち合う覚悟が必要  
です」。また、学校側にも地域の方  
を受け入れる覚悟が求められます。  
「学校、家庭、地域が同じビジョン  
を共有し、学校がやるべきこと、  
家庭が責任を持つべきこと、地域  
が引き受け支援すべきことを、そ  
れぞれが責任を持って実践してい  
かなければなりません」

## 支援から連携、協働へ

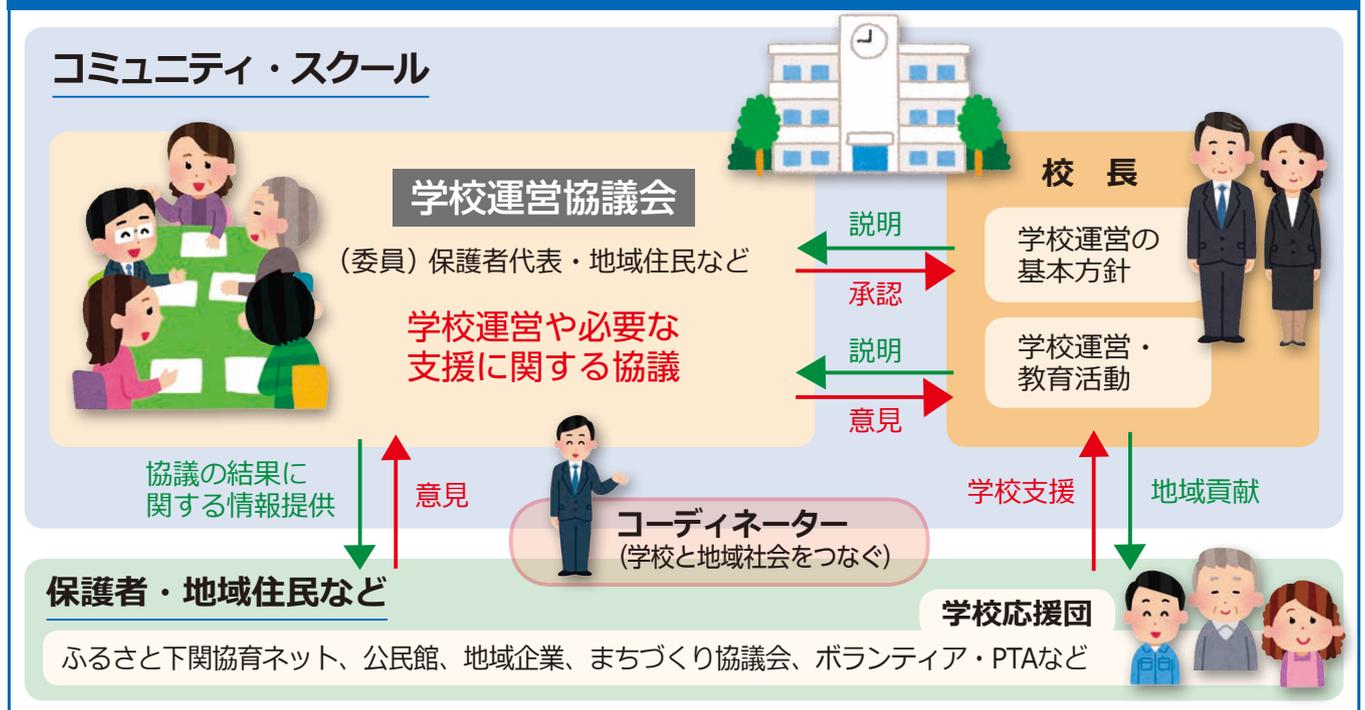
まずは、地域の方が学校を支援  
するという意識を持つことが大切  
ですが、「その次の段階として、支  
援するという形から、地域と学校

## 【特集】

# 地域と

がパートナーとして連携、協働す  
るといふ形へ移行しなければいけ  
ません」。そのためには、地域の体  
制づくりが必要となります。「それ  
ぞれで活動していた地域の方や各  
種団体が横につながるネットワー  
クを築き、それを取りまとめる組  
織体制を構築すること。それによ  
り、地域の人材や資源など、その  
特性を生かした学校づくりが可能  
となります」

## コミュニティ・スクールの仕組み





王司小学校  
竹中 謙二 校長

**王** 司小学校のコミュニティ・スクールは王司地区ふるさと協育ネット「ようきたね」を中心に、王司まちづくりの会と連携しながら豊かな心を育む教育活動の充実を図っています。昨年は3年生が王司地区の夏祭り「神田川まつり」の由来や、まつりに関わる地域の方の願いについて学習するなど、地域の素材や人材を生かした体験学習を取り入れています。

### コミュニティの拠点

王司小学校の竹中校長に話を伺いました。「学校を応援して下さる地域の方が学校で集まることも多く、学校が地域コミュニティの中心的な役割を果たしています」と竹中校長。「親同士はもちろん、教職員や地域の方などが世代を超えて、学校で出会い、つながって

くことで、いろいろなことがスムーズに進んでいるように思います」学校の活動を支援する地域の方の中にはいろいろな技術、能力を持った方も多く、「児童が地域の方から生け花や琴を教えていただきたいこともあり、学校だけではできないような貴重な体験をさせていただきます」

### 自己肯定感と地域への愛着

地域の大人が学校に入り、子どもたちと接することで、子どもたちは社会性を身に付けていきます。また、「王司村塾などもそうなのですが、親や学校の先生以外の大人が褒めてくれる、というのは子どもたちにとって非常にうれしいことなんです」と竹中校長。「自信にもつながりますし、子どもによっては、そこに居場所を見つけるこ

## 事例 1

# 【特集】 地域と共にある学校

コミュニティ・スクールの活動事例として  
このページでは王司小学校を紹介します

**コ** ミュニティ・スクールのコーディネーターとして、学校と地域の方をつなぐ活動をしています。

以前、王司小の児童から「クラブ活動で生け花をしてみたい」という声があり、先生方から相談を受けたことがあります。その時は、生け花経験のある地域の方に声を掛けたところ、ぜひ協力したいという話をいくつかいただき、学校に紹介して、うまくことが進みました。現在、生け花クラブを行っています。逆に地域の方から「子どもたちに琴を教えたい」という話があり、学校に相談したところ、音楽の授業の中で、その機会を設けてもらうことができました。

王司には、いろんな才能、能力のある方がたくさんいて、皆さん学校に協力してくれます！

王司小学校  
コーディネーター  
縄田 牧子 さん



地域と学校をつなぎます！  
**Voice**

**教** 員や保護者とは違う第三者として、地域の方が学校に関わることは、学校にとっても子どもたちにとっても、価値のあることだと思います。先生たちのフォローもできますし、学校の問題を客観的に見ることもできます。いろんな意見の中から妙案が生まれてもきます。

私は自治会の関係にも携わっているのですが、まちづくりと学校は密接に関わっていると感じています。学校は、まちづくりの核になる存在。学校に元気のない地域が活性化することはありません。王司地区はボランティアに積極的な方が多く、学校の困りごとなどがあれば、すぐに数十人規模で人が集まります。地域で子どもを育てる、という意識が根付いているように感じますね。

王司小学校  
学校運営協議会  
藤井 勲 会長



学校はまちづくりの核！  
**Voice**



地域の皆さんに  
勉強を教わる！

# 王司村塾



8月21・22日、希望した子どもたちを対象に、夏休みの王司村塾が開催されました。子どもたちが分からないところや苦手なところを、地域のボランティアの方から教えてもらいます。

書道など自分が準備した夏休みの宿題や自主学習に集中して取り組みました。21日の休憩時間には、牛乳パックとストローを使った竹とんぼ「ストロンボ」を地域の方と一緒に作りました。



王司小学校5年生 近藤 優衣 さん

王司村塾に参加しました。分からない問題を地域の方がいつも優しく教えてくれます。王司村塾以外にも、地域の方から王司踊りを教わったり、地域の昔の話などを聞かせてもらったりすることもあり、王司のことがよく分かって楽しいです。街で会うとあいさつをしてくれるのもうれしいです。



ともあります」。子どもにとって大切な自己肯定感の高まりにも期待できると話します。

保護者からは「子どもが地域の方への感謝の言葉を話すようになった」「子どもから地域への愛着を感じるようになった」、地域の方からは「子どもたちが喜んでる姿を見ると元気をもらえる」といった声が届いているそうです。「ありがたい言葉を皆さんからいただいたいます」と竹中校長。「花壇整備や草刈りなど、本当にいろいろなお手伝いいただいています。皆さんのサポートで、教職員にも余裕が生まれ、今まで以上に授業や子どもたちと向き合うことができます」と話しています。

**週** に1度、「たんぼぼのはら」というサークルで、子どもたちに読み聞かせを行っています。子どもたちが本当に喜んでくれるので、私たちもうれしいですね。

サークルが始まったのは約20年前で、当時は私の子どもも王司小に通っていました。わが子が卒業した後も続けているのは、子どもたちのために何かできることがあればという思いや、純粋に子どもたちの笑顔が見たいという気持ちからです。サークルには、お孫さんやひ孫さんがいるメンバーもいます。メンバーみんな、子どもたちから元気をもらって頑張っています。学校外で子どもたちに会った時、私からあいさつすることもあれば、子どもたちから話しかけてくれることもあり、本当にうれしいですね。

笑顔に元気を  
もらえます！

**Voice**



王司小学校で  
読み聞かせを行う  
磯部 恵 さん

**子** どもたちは、地域の方とふれあうことで、大人とのコミュニケーションの取り方を学んでいるように見えます。親や先生以外の大人と接する機会はあまりないので、大切な時間だと思います。地域の方も子どもたちの顔を覚えてくれて、街で会ったときにも声を掛けてくれるので、心強いですね。

王司小では、授業参観や懇談会の間、地域の方が預かり保育をしてくれます。幼い弟妹がいるとゆっくり授業参観に参加することができませんが、その間だけでも弟妹を見てもらえるので、すごく助かります。

これをきっかけに、地域の方とのつながりもでき、ベテランのお母さんに子育て相談をする保護者の方もいるんですよ。

地域の方は  
心強い存在！  
**Voice**

王司小学校 P T A  
村田 知之 会長



## ※熟議

学校や家庭、地域の方などが、子どもたちの教育の当事者として、「熟慮」と「議論」を重ねながら課題解決を目指すもの。「熟議」をすることで、お互いの立場や果たすべき役割に応じた解決策や方策が洗練され、それぞれが納得して自分の役割が果たせるようになります。



## 事例2

### 菊川中学校区 熟議

ブニールで、8月30日、菊川中学校区教育懇談会熟議が開催されました。菊キクネットと菊川町PTA連合会の共催で、菊川地区の小・中学生、高校生、その保護者や教職員、地域の方など、約130人が参加しました。熟議は「学びの町菊川」を実現するために「ブニール」をテーマにワークショップ形式で行われ、グループごとに討議した結果を発表。「ブニールを学びの町菊川の拠点にすべき」「教師はもっとスキルアップすべき」などの意見が挙がりました。

菊キクネットの徳吉眞次会長に話を伺いました。「菊川の皆さんは地域に対する思いが強いので、議論も白熱していましたし、いい意見がたくさん出ていました。今後の参考にしたいですね」と徳吉会長。「今回、初めて子どもたちも参加したのですが、大人も驚くような鋭い意見も出て、盛り上がりました。これからも続けたいですね」熟議に参加した菊川中学校3年生の山本遙己くんは「地域の皆さんが、真剣にぼくたちのこと、学校のことを考えてくれたり、学校のことを感じました。皆さんの思いを学校に持ち帰り、みんなに伝えたいと思います」と話してくれました。

## 事例3

### 市立大の学生が教える！ にじいろ算数大作戦

8月29・30日、市立大学で同大の学生が小学生に算数を教える「にじいろ算数大作戦」が開催されました。山の田中学校区の小・中学校を支援する「山の田中学校区にじいろネット」が、同大学の協力で毎年夏休みに行っており、今年で6回目。教員を目指す同大生37人と近隣の山の田小学校と生野小学校の5年生約130人が参加しました。

企画を担当した同大3年生、馬場園友吏江さんに話を伺いました。「5月から準備して大変なことも多かったけど、子どもたちがニコッと笑ってくれたりする反応を見て、頑張った甲斐があったと思いました。指導した学生は学校の先生を目指しているのだから、いい経験ができたと思います」。山の田小学校の小屋遼太朗くんは「ひっ算をした後の小数点の位置について、大学生のお兄さんから分かりやすく教えてもらいました。2学期に向けて、やる気が出ました」と話してくれました。





## 事例4

### 地域の皆さんが勉強を教える！ 内日小学校 サマースクール

**内**日地区では、小・中学校合同で学校運営協議会を行っています。その中で「学びプロジェクト」「心プロジェクト」「健康プロジェクト」の3つのプロジェクトを組織し、さまざまな活動をしています。「心プロジェクト」の取り組みの一つとして行っているのが「地域あいさつ運動」です。地域の方が通学路に立って児童・生徒にあいさつを行うもので、参加される方も増え、盛り上がりを見せています。

学びプロジェクトの一環として、地域ボランティアの皆さんが子どもたちに勉強を教える「内日小学校 サマースクール」が、8月26・27日に開催されました。

参加した同地区の寺戸由美子さんに話を伺いました。「学校に対して、敷居の高いイメージがあり、少し遠慮する気持ちもありましたが、実際に参加してみると、子どもたちはかわいくて素直で、楽しい時間を過ごすことができました」と寺戸さん。「問題が思っていたよりも難しく、頭の体操にもなりました」と笑います。

参加した6年生の岩本拓磨くんは、「すごく丁寧に教えてもらいました。普段から知っている地域の方に勉強を教わるのは少し不思議な感じがあったけど、優しく教えてもらってうれしかったです」と話してくれました。

【特集】

# 地域と共にある学校

地域の拠点、まちづくりの拠点である学校  
学校を盛り上げることが地域の活性化につながります

**一緒に学校を応援しませんか**  
今回紹介した事例以外にも、各学校、地域などでコミュニティ・スクールの仕組みを生かした活動は盛んに行われています。  
学校、家庭、地域が力を合わせ、子どもたちを育てていくことが、学校だけでなく、地域全体の活性化にもつながっていきます。地域の方が積極的に応援してくれる姿は、子どもたちの地域への愛情に大きく影響します。地域に愛着を持った子どもたちこそ、このまちの次の担い手になるのです。  
地域の方の協力がこのまちの未来を明るくします。まずは一度、学校を訪れてみませんか。

